

# 27AB-pm423

「薬劑誌」(明治 22-25 年)の目次リスト

○五位野 政彦<sup>1</sup> (東京海道病院 薬)

【はじめに】「薬劑誌」は第一期(M22-M25)と第二期(M34-T15)に分けられる。吉岡の報告 1)は 14 号(M23)以降限定であり、創刊当時に触れていない。今回同誌第一期の目次リストを作成し、吉岡同様に同時期の「薬學雑誌」との比較を行った。

【調査方法】下記資料を参照し、目次リストを作成した。また両者の内容を比較した。資料:「薬劑誌」(1-41:欠 38-40:演者個人蔵,東京薬科大学図書館・情報センター蔵),「薬學雑誌」(演者個人蔵,東京薬科大学図書館・情報センター蔵,国立情報学研究所ウェブサイト公開資料),

【結果】「薬劑誌」には社説に相当する「薬劑誌」,東京薬劑師会記事,論説などのほか、「東大模範薬局」による情報,「時況」(薬業関連記事),「商況」(主に京浜地区の薬品相場),質疑応答も掲載されていた<sup>†</sup>。「薬學雑誌」は投稿論文と地方報告が多い。

【考察】薬劑師会発行の「薬劑誌」は薬劑師実務に関する記事が多く、論文主体の「薬學雑誌」とはその発行目的が異なる。「薬劑誌」には薬劑師(M22-)が近代薬学を構築していくという熱い思いの投稿もみられる。東京薬劑師会が外部に機関誌の発行委託を行った事は、「薬事新報」(S33-)が二次大戦後の日病薬機関誌としての役割を持っていたことに重なる。

2015 年 11 月現在「薬劑誌」はウェブサイトからの検索ができなく、一部施設での閲覧にとどまっている。近代薬学史研究上、デジタル化と公開が望まれる。

【文献】1)吉岡信. 近世日本薬業史研究. 薬事日報社. 1989. p. 437-441

<sup>†</sup>web 上でもリストを公開予定(示説日から期間限定).